

※表彰事例を除く

# 令和2年度ちばコラボ大賞 1次審査通過事例

惜しくも表彰とはなりませんでしたが、とても素晴らしい活動に取り組まれている事例をご紹介します。

## 空き地・所有者不明土地問題解決モデル構築

八千代市



八千代市緑が丘西自治会では、地域で利用されずに管理不全となった土地の活用を目指し活動しています。

国土交通省のモデル事業として、地元企業や不動産鑑定士などの専門家、行政などと連携しながら、ドローンを利用した空き地調査や、無料相談会などを開催したほか、空き地の管理だけに留まらず、地域住民のニーズを踏まえて、気軽に集うことができるおしゃれな交流拠点や、子供たちが気軽に遊べるポケットパークを整備しています。



# ちばコラボ大賞 第10回

## 表彰事例の紹介

## 地域をあげた防災の学び

銚子市



千葉県立銚子高等学校では、県立学校改革推進プランのもと、学校設定教科「防災の学び」を中心に、地域に根ざした防災教育や探究活動の実践に取り組んでいます。

大学、企業、NPO法人、行政機関など様々な外部機関と連携し、郷土の偉人を知る紙芝居「稲村の火」の上映、千葉科学大学による「災害時の保健・医療・福祉」をテーマとした特別講座、銚子ジオパークによるジオツアー等を行っています。

県内には、福祉や環境、子育て、まちづくりなどのさまざまな分野で、市民活動団体が地縁団体、企業や学校、行政機関等と連携して地域の課題解決に取り組むことで、成果を上げている事例がたくさんあります。

県では、そのような連携事例の中から、他のモデルとなるような優れた事例を「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」として表彰しています。

第10回目となる令和2年度は、県内各地から6件の応募があり、審査の結果、3件を表彰事例に決定しましたので御紹介します。



表彰式・事例発表会の様子をYouTubeでも配信中!

ちばボランティア情報局 YouTube で検索



## 令和2年度 スケジュール

※令和3年度の募集も、6月頃から開始する予定です。

- 6月～8月 / 連携事例の募集
- 9月～10月 / 事務局による1次審査
- 10月～11月 / 審査委員による2次審査
- 12月 / 表彰式



千葉県マスコットキャラクター「チーバくん」



令和2年度 ちばコラボ大賞表彰式



表彰事例記念写真の様子

令和2年度ちばコラボ大賞表彰式は令和2年12月23日に千葉市民会館で開催されました。

表彰式では、富塚環境生活部長から表彰事例の代表者に賞状が贈られたほか、チーバくんも加わり記念撮影が行われました。

富塚環境生活部長からは、「表彰に至らなかった団体の

皆様も含めて、新型コロナウイルスの影響を受ける中、活動を続けてくださり、感謝で胸がいっぱいになる思いです。皆様の活動はこれからの社会を支えていく、協働・連携・パートナーシップのモデルとなるものだと思います。」とのメッセージが送られました。

審査委員長からの講評

審査委員長 鎌田 元弘氏



新型コロナウイルスの影響下、パートナーシップで困難を乗り越え、ちばコラボ大賞を受賞されて、「あの時はああったね」「それがあって今があるだね」という日が必ず来るかと思えます。どの事例もネットワークを作り、お互いの長所を生かしながらプラスアルファを生み出し、地域課題の解決だけでなく、地域を活性化していくような素晴らしい取組でした。

表彰事例

1

千葉の里山でおもてなし、持続可能社会に向けたボランティア活動

市原市ほか

ちば里山・バイオマス協議会、竹もりの里、いすみ薪ネットワーク、ダイアキッズ、千葉県立大多喜高等学校、勝浦市、学校法人光の子学園光の子幼稚園、株式会社やます、天竺株式会社

● コラボのきっかけ

大多喜町老川地区の廃校プロジェクトで集まった団体が、「せっかく集まったのに一度きりの活動にするのはもったいない!」との思いから、現在も、地域資源活用による地域の活性化等について協力して取り組んでいます。

● 事業の内容

子どもたちに里山に触れ合う機会を提供したり、台風被害木の片づけなどを通して、「地域資源活用による地域の活性化」「里山再生とバイオマス利活用の推進」「林業の担い手育成」に取り組み、相互扶助の心を育て、持続可能社会を目指しています。

竹林からタケノコのほか、メンマ、竹炭などに加工して販売したり、竹林の整備だけでなく、農工商連携にも取り組み、竹の利活用もおこなっています。



評価のポイント!

広い領域で活動されていて、里海と里山の連携や、国産メンマプロジェクトなど新しい取組にも積極的に挑戦されています。SDGsにも繋がるような幅広い活動をされている点が評価されました。

表彰事例

2

みんなで作る自然の郷～たろやまの郷へいこう～

四街道市

たろやま会(NPO法人四街道メダカの会、四街道フォレスト、四街道自然同好会、総合公園の植生調査の会、よつかいどう野外保育さとのたね、NPO法人四街道子どもネットワーク)、四街道市役所

● コラボのきっかけ

土地所有者の高齢化や後継者不足などにより、手入れが行き届かない里山が増えていました。そのような中、土地所有者の厚意により土地(現たろやまの郷)を借り受け、たろやま会と四街道市が協働して昭和30年代の里山風景の再生を目指した保全活動を開始しました。

● 事業の内容

市街化区域に隣接し、人の手が入らなくなった「たろやまの郷」の散策路を手作業で整備したり、休耕田を復元した稲作体験、動植物調査も毎月実施するなど、幅広い活動に取り組んでいます。

近隣小学校の授業の一環として自然観察会や市民向けのイベント(田植え、稲刈り等)も実施し、自然のある景観形成の大切さを学ぶ機会を創り出しています。



評価のポイント!

若い人からお年寄りまで、老若男女の多彩なメンバーがそろっていて、四街道市役所とも密接に連携を取りながら活動しています。イベントの時だけでなく、日常的な活動にもしっかりと取り組んでいる点が評価されました。

表彰事例

3

地域の福祉は地域住民の手で

市川市

NPO法人生きがいと助けあいSSU市川、塩焼地区自治会連絡協議会、東行徳自治会、塩焼2丁目自治会、行徳ハイム自治会、塩焼3丁目自治会、塩焼5丁目自治会

● コラボのきっかけ

「一人でも多くの人が個人として尊重され、自由や幸福を得ることができるようにお世話をしたい」との考えから、数名の発起人が塩焼地区の住民に声を掛け、定年を迎えた男性や、子育てを終えた女性を中心に構成されるSSU市川が結成されました。

● 事業の内容

「地域の福祉は地域住民の手で」をスローガンに、塩焼地区の自治会と協力しながら、地域のニーズを把握し、住民の目線で地域に密着した活動をしています。買い物や通院介助などで困っている住民を、地域の人々の手で支え合う「助けあい事業」を中心に、介護制度を利用した事業やサロン活動にも取り組んでいます。



評価のポイント!

わずか6人で、また、自治会から始まった取組が20年もの長きにわたって継続されています。長い間、地元根差して地道に取り組んできたからこそできる「助けあい活動」が高く評価されました。